

笑顔が絶えない世界を

那覇市立高良小学校
六年 田代 涼乃

澄んだ青空と
ぎらぎらと照りつける太陽
元気いっぱい笑い声と
きらきら輝くみんなの笑顔
あたりまえだと思っていた
六十七年前は
あんなに恐ろしいことがおこって
いたなんて本当に思いもしなかった

爆弾が爆発する大きな音
ザクザクと近づいてくる米軍の足音

みんなの叫び声
みんなが苦しんでいる姿

自ら命をたつ人々

真っ黒な大地に

真っ黒な空

そこには

目と耳をふさいでしまいたい

恐ろしい光景があった

沢山の家

沢山の美しい自然

沢山の笑顔

そして

沢山の命

戦争はすべてをうばった

私は祖父から

この話を聞き

少しためらった

そんな恐ろしいこと

あるはずないと

でも祖父の目は

うそをついていなかった

どこか切ないような

悲しいような目をして

昔のことを思い出すかのように
遠くを見つめていた

涙のしずくが一つぶ

祖父の目からこぼれおちた

私の目からも

涙のしずくがこぼれおちる

まるで戦争でよごれた体を洗い流すように

うまく言えないけれど

迷路からぬけ出せない時のような

複雑な気持ち

「なぜ人々はそのあやまちに早く気づかなかった
のだろう

沢山の命をうばったあの戦争に

なぜ人々はそのむなしさに

早く気がつかなかったのだろう

戦争をして得られる物はないのに」

祖父はそう言いながら

泣きじゃくる私を

ぎゅっとだきしめてくれた

祖父の胸は暖かくて

こちよかった

それから三年がたった今

祖父の話を思い出し

私は思う

平和という喜びを

かみしめて生きていきたい

笑顔を大切にして

二度と戦争をおこしたくない

戦争の恐ろしさを

みんなに伝えていきたい

笑顔が絶えない世界を

この手で

つくりあげていきたい